

2023年 9月 24日

## 主 日 礼 拝

司 会 ②石井 秀人兄

奏 楽

祈 禱 ②石井 洋子姉

賛 美 聖歌236番「望みはただ主の」  
～注がれた愛～

聖書朗読 ローマ人への手紙5章1～5節

特別映像 《証し》輪嶋東太郎氏 《歌》ベ・チェ Chol 氏

メッセージ 「苦難を喜び、弱さを誇る人生」

石井 潤 牧師

献 金 聖歌453番「罪深きこの身を」

頌 栄 賛美「目を開けて」

祝 禱

お知らせ 〔司会者〕

賛 美 「見つめ続けます」

☆礼拝にお越しくくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆  
《今週のお知らせ》

★本日も礼拝の恵みを感謝致します。午後は聖歌隊の練習が行われます。

☆今週の祈り会：○早天祈祷会、明朝6時。 ◎木曜祈祷会：①午前10時半  
ボーマン・ルリ子師。②夜7時半(大和祈祷会映像)。○準備祈祷会：土曜夜8時。

★木曜午後2時～、上田市大手の石井兄妹宅にて家庭集会が行われます。

☆来週日曜礼拝では誕生祝福式。午後は聖書の学び会です。(司:白川兄/祈:石井兄)。  
《予告》10/15(日)「秋の納骨式及び召天者記念礼拝」(教会納骨堂前にて)が行われます。

☆一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [9/24-10/1]

| Date | 日            | 月        | 火         | 水           | 木       | 金          | 土       | 日          |
|------|--------------|----------|-----------|-------------|---------|------------|---------|------------|
| 聖書箇所 | 2コリント<br>4-7 | 8-<br>10 | 11-<br>13 | ガラテヤ<br>1-3 | 4-<br>6 | エペソ<br>1-3 | 4-<br>6 | ピリピ<br>1-4 |
| チェック | 〇〇〇〇         | 〇〇〇      | 〇〇〇       | 〇〇〇         | 〇〇〇     | 〇〇〇        | 〇〇〇     | 〇〇〇〇       |

## 「苦難を喜び、弱さを誇る人生」

～人生最上のわざは祈り～

「そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」

「すると主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ』と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。」  
ローマ5章3-5節／第二コリント12章9-10節〔新共同訳聖書〕

パウロほど、多くの苦しみを経験した伝道者はいないだろうと思います。2コリント11章にその壮絶な内容が記されています。しかし、彼の結論は、どんなに誇れるような苦難を経験したとしても、自分の「弱さ」（「病い」）以外に主の前に誇ることはできないということ。

人生はそれぞれで、パウロと自分を比較しても何もありませんが、弱さ以外に誇れるものはないという部分は同様に持つことができる内容であると思います。なぜなら、弱さゆえに、私たちは主の恵みを知り、主の恵みに頼り、生きることができるようになるのですから。

イエズス会のドイツ人司祭であり、上智大学二代目学長（1937-40）であったヘルマン・ホイヴェルズは「人生の秋に」というエッセイの中で、「最上のわざ」という詩を記しています。

「この世の最上のわざは何？

楽しい心で年をとり、働きたいけれども休み、

しゃべりたいけれども黙り、失望しそうなときに希望し、

従順に、平静に、おのれの十字架をになう―。

若者が、元気いっぱい神の道をあゆむのを見ても、ねたまず、

人のために働くよりも、けんきょに人の世話になり、

弱っても、もはや人のために役立たずとも、親切で柔和であること―。

老いの重荷は神の賜物。古びた心に、これで磨きをかける。

まことのふるさとへ行くために―。

おのれをこの世につなぐくさりを少しずつはずしていくのは、真にえらい仕事―。

こうして何もできなくなれば、それをけんそんに承諾するのだ。

神は最後にいちばんよい仕事を残してくださる。それは祈りだ。

手は何もできない。けれども最後まで合掌できる。

愛するすべての人の上に、神の恵みを求めるために、すべてをなし終えたら  
臨終の床に神の声をきくだろう。

『来よ、わが友よ われなんじを見捨てじ』と。」